

ヒサカキの語源説の紹介

横山 健三

○サカキに似ているからという説

僧契沖著『万葉代匠記』（1690年）に「サカキは龍眼木の義か。また、葉がサカキに似ているところから」という。『日本国語大辞典』語源説（2）に紹介する。

○ヒキサカキ・低い榊・短いサカキという説

寺島良安著『和漢三才図会』（1712年）に『榊 和名比佐加木 矮榊（ヒキサカキの略言乎 俗云比佐々木 靴云比婆々古』と。

○上と類似の説

谷川士清著『和訓栞』（1830～62年）に『ひさかき 和名抄に榊をよめり賢木に似て小木なればひさかきの義なるべし俗にびしゃしゃけともびしゃかきともびしゃこともいへり九州にてあくしばといふ灰汁柴の義也』とある。

○真（マ）サカキに対して非（ヒ）サカキの意という説・（本当の榊とそうでない榊）

曾榮著『国史草木昆虫攷』（1821年）に「ひさかき順抄に榊を注したり、真サカキにむかへて非サカキといふなるべし。」とある。

○サカキに似ているから・ニサカキ（似榊）の転かという説

井口丑二著『日本語原』（1926年）のヒサの項に「ヒサカキは似榊の転か」とある。

○ミサカキ・実榊の転という説

大槻文彦著『大言海』（1935年）に『ひさかき 榊（実榊樹（ミサカキ）ノ転、実多ケレバ云フ』とある。

○ヒサカキ・火榊という説

賀茂百樹著『日本語源』（1943年）に「※（ヒサカキ）実といへど火榊なるべし 火榊も赤きよりいふ。赤色に火何といふもの多し。」とある。

○ヒメサカキ・姫榊の訛という説

牧野富太郎著『牧野新日本植物図鑑』（1961年）に「〔日本名〕姫サカキの訛りでサカキに比べて小型であることを示す、サカキの少ない地方ではこれをサカキの名で神事に使う」とある。

○日本国語大辞典も『ひさかき 榊 名（「ひめさかき」の変化した語）とある。

○昭和五七年十一月十日は秋葉山で、植物名の研修会があった。講師は加茂市の坪谷富男氏であった。ヒサカキの説明では、「非榊・否榊の意味で、サカキではない・サカキではありませんという意味です。こんなものを神様に上げるから、いいこと・御利益がないのですよ。」という、お話だった。

◎自説一案・ヒモロキ神ヒとヒサカキのヒと関係があり、関連の植物が多数ある。

ヒサカキの名は、古代の神事・ひもろき＝神籬・いはさか＝磐境と関係があると見る。



ヒサカキ 新津市秋葉公園 1997. 9. 30 (野口幸枝氏撮影)